

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名【新】知（地）の革新・交流事業費

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail : c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 7,827 千円 (現計予算額： 0 千円)

＜財源内訳＞

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	7,827	3,913	0	0	0	0	0	0	3,914
決定額	7,827	3,913	0	0	0	0	0	0	3,914

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

中小企業を取り巻く情勢は依然として厳しく、人材不足への対応、働き方改革に伴う人材マネジメントなどの内部管理の課題が増える一方、グローバル市場の拡大、DX化の浸透、ユーザーニーズの多様化などが進み、限られた人材や資金で新たな製品やサービスを開発していくかねばならず、社員育成のノウハウに乏しい多くの中小企業が苦しんでいる。こうした状況をブレイクスルー（思考打破）する手段のひとつに、アイデアの発想や技術を外部からうまく取り込む「オープンイノベーション」という手法がある。

これまで本学では、アート、デザイン、工学、社会学など多様な分野の教員と学生が切磋琢磨する中で、デザイン思考やシステム志向、IT、IoT、視覚的ブレインストーミング等に関する人材育成のノウハウを培ってきた。

本事業では、本学の地域連携、地域貢献の取り組みの一環として、本学が有する人材育成の知見（知）を地域（地）に還元することを目的に、県内中小企業が自社の課題に取り組むための新たな視点を持ち、革新的なアイデアを創出できる人材を自ら育成していくよう、公開講座や、企業間の交流を伴う実践型演習・伴走支援を有料（参加負担金を徴収）で開催する。

（2）事業内容

I AMASがこれまで蓄積してきたデザイン思考・システム思考に関する教育・研究の内容について短期間で習得できる体験講座等を一般向けに提供し、新規事業創出に必要な視点、人材の育成を目的として実施する。

[事業概要]

- IAMA S教員による公開講座
- 伴走型実習プログラム
- 交流参加プログラム
- 成果報告会の実施

(3) 県負担・補助率の考え方

県 1/2 国 1/2 (地域未来交付金の申請を予定)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	0	講師謝金
旅費	53	業務旅費
消耗品費	122	資料コピー代等
役務費	71	通信運搬費
委託料	7,581	運営管理業務委託費
合計	7,827	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県経済・雇用再生戦略2023年3月策定 - (1)新たな産業活力の創出

(3) イノベーションを牽引するスタートアップの創出支援の強化

ソフトピアジャパンエリアにおけるビジネスマッチングやイノベーションの創出支援

(2) 後年度の財政負担

事業効果を見ながら同規模で三年間の継続実施

(3) 事業主体及びその妥当性

国からも注目される本学の思考方法は、他者において実施不可能。

事業評価調書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業
□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

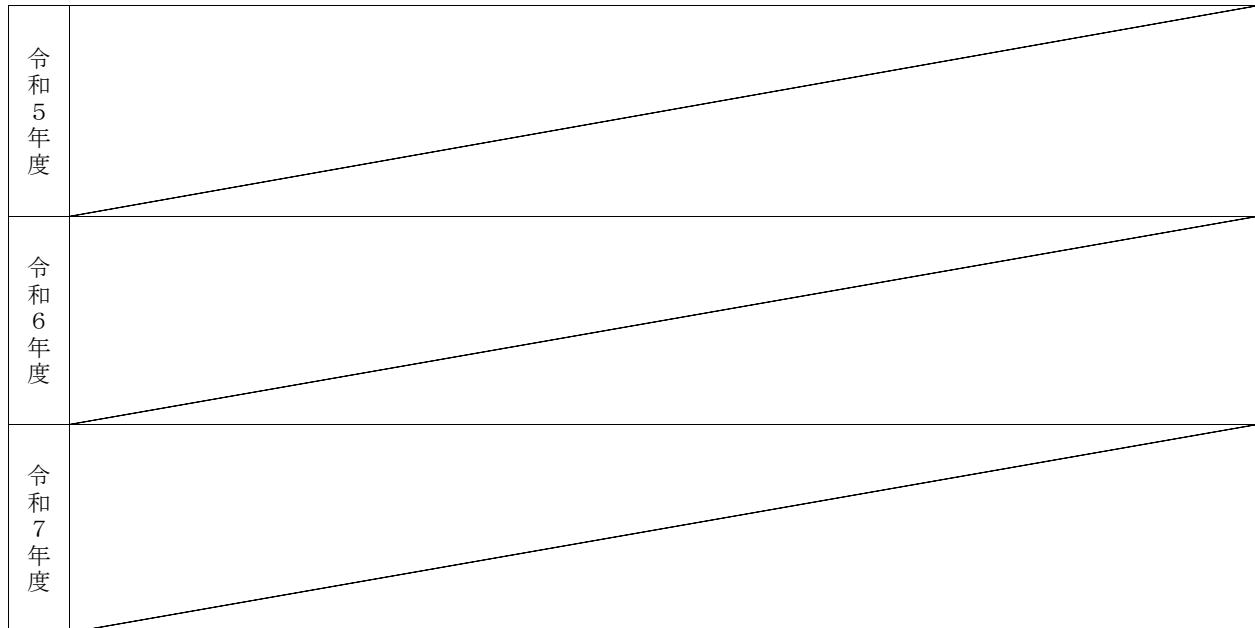
IoTを活用した新製品開発や新価値サービス創造について実践的に普及・促進を図り、県内中小企業の開発・経営力を強化する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標	達成率
①成果報告会等の参加者（アクセス数）						100	100
②ワークショップ参加者数					10	10	-

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）



2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない

(評価)	
------	--

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3 : 期待以上の成果あり

2 : 期待どおりの成果あり

1 : 期待どおりの成果が得られていない

0 : ほとんど成果が得られていない

(評価)	
------	--

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている

(評価)	
------	--

(今後の課題)

--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

企業からの関心が高い事業であり、新たな道を模索する県内企業に、イノベーションを学ぶ機会を提供したいと考える。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	

【○○課】